

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392800070		
法人名	株式会社夢と希望の華		
事業所名	グループホームたなお		
所在地	愛知県碧南市源氏町2丁目31番地1		
自己評価作成日	令和 4年 1月 10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [3/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=239](http://3/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=239)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 福祉サービス評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中川区四女子町1-59-1-902		
訪問調査日	令和 4年 2月 4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームたなおは、「高齢になっても、認知症状態になっても、夢や希望を持って人生の華を咲かせ続けられるように共に歩みます」の理念の基、認知症状態になっても可能な限り、今までの生活が継続できるように一人一人の状態に合わせた支援を行っています。建物は木造で温かみある、且つ入居者のプライバシーが確保できる空間を大切にしています。また、できる限り施設感を抑え尊厳ある成人の人が暮らす「家」とした環境作りに配慮しています。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で当ホームが力を入れている地域に積極的に出て、地域との交流促進が行えなかったが、感染対策を取りながらも屋外への外出など出来ることを話し合いながら実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは”今までの生活と変わらない、住み慣れた地域環境で暮らしていただく”を基に、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、自立した日常生活を営むことが出来るようにしている。特に外出は、社会との繋がり維持のため、自由に出入れように玄関の施錠は行わず見守りに取り組んでいる。法人代表者でもある管理者は、碧南市高齢者福祉計画策定委員を務めており、市や団体と連携して地域の人々への認知症ケアの理解促進に取り組んでいる。職員の働き方改革として、ICT活用(利用者の状況をケアカルテ入力)での事務量削減やタブレット活用での情報共有化、また研修もオンライン受講を取り入れ職員の資質向上に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月に一度のユニット会議にて理念の確認を行うとともに、人事考課の項目にも理念の理解と実践の項目があり理念に沿った実践が行えるようにしている。	ホーム理念の実現と実践に向け、各種研修や会議等の場でその趣旨の徹底を図っている。業務の場においても個々の事例対応等に付いて理念に基づいた対応の指導を行っている。人事考課にも「理念の評価と実践」を反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在は新型コロナウイルス感染の影響で地域に出る機会がほとんどなくなっているが、方針としては積極的に地域に出ることを推進している。今秋から月に一度ホーム近隣の神社や公園の草取りをして地域の一員としての活動を再開した。	地域行事への参加、地域住民とのふれあい等、は積極的に行っていたが、コロナ禍のため多くが中止となっている。現在は近隣の方々との挨拶や公園の清掃等を行っているが、行事等は「三密」を避けて参加できるものに限定している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が認知症初期集中支援チームのチーム員として、地域で困っている方へのサポートを行政と連携しながら行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の取り組みやサービスの実際を報告、入居者の様子を写真を見て頂きながらお伝えしている。家族からの意見も現場に反映できるように取り組んでいる。	会議は入居者の状況やヒヤリハット等の項目と新たに日常生活のスライドショーの写真を流し現状のありのままを報告している。コロナ禍で家族の参加は少ないが市職員は毎回参加して意見交換し地域・行政との連携に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者がキャラバンメイト連絡会代表として行政の担当者と日頃から連絡を取り、当該事業所のことのみでなく市全体の認知症介護について意見交換を行っている	管理者は碧南市高齢者福祉計画の策定委員で認知症介護政策等について積極的に提言している。また行政職員、民生委員等に認知症の研修を行い、市職員には運営推進会議に参加して意見をもらう等、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は行わず、外へ出たい方には、自由に出かけられるよう、安全に配慮したのち、出かけて頂いている。身体拘束しなくて済む方法を考えながら日頃のケアに努めている。	介護のあらゆる場面において非拘束対応をめざし「入居契約書」にも明記しており、研修などで正しく理解しており身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の非施錠や人手と手間のかかる見守り対応にも工夫をこらしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については、会議などで虐待と疑われそうな事も共通理解できるようにしている。強い口調や虐待になりうる言葉がけにも注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、職員全体としては日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会は設けられていないが、管理者、リーダーは制度についての知識は把握している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、事業所の方針を説明し、納得していただいた上、契約をしていただいている。制度改正等がある場合はその都度か続投への説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、日常の様子の情報提供をおこない、家族からの希望があればケアプランに反映している。毎月、その月のイベントや日常などを載せた通信や個々の様子をまとめた手紙を送付している。	利用者の意見、要望等は日常会話やケアの中で聞きだし、把握に努めている。家族等の意見や要望等は、運営推進会議や面会時、電話等で聴き取り会議等で検討し、ケアプランや運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の役職者会議を開催しており、その場で職員からリーダーへ上げられた相談や提案を話し合っている。また、管理者も介護業務に入っているため、業務内での相談等も受けている。	管理者は、職員が日常の業務などから問題点などを見つけ、日々のミーティング、ユニット会議、役職者会議等で意見や提案を言う機会を設け運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ワークライフバランスを大切に、極力時間外労働が無いようにしている。また、キャリアアップ制度も導入しており、キャリアに沿った賃金体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で外部研修への参加は見送っている。事業所内での勉強会やOJTを通して職員教育を行っている。また外部へ委託しオンラインでの研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者が広域の介護ネットワークを構築しており、交流会や勉強会にも職員が参加する機会を設けてい居るが、今年度もコロナの影響で交流等は行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	積極的に話かけ、ご本人の話を傾聴しながら関係性づくりに努めている。話を聞く中で、本人の好物なや好きな事などを聞けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族にも積極的に話かけ、現場スタッフにも気軽に要望が話せる関係づくりに努めている。面会時など家族の希望や要望を聞き取り、反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回面談時に本人と家族が何が大変になっているかの情報を確認し、本人がどのような時に困っており、どんなケアが必要かを取り入れている。歯科受診など継続的に必要な方には、外部からの往診を続けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「共に歩みます」と理念にもうたっており、一方的な介護をせず、出来ない部分のみを見るのではなく、本人の得意な事を発揮し続けていけるような支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染対策を取りながら感染状況に合わせた面会を実施している。現在は玄関ホールでの面会から居室での面会に変更。家族との交流の自由を奪わない様配慮している。通院など家族が行って頂けている事は、継続して行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、利用者が地域に出る機会がほとんどなくなっているが、年賀状を利用者が家族や友人に出す事を支援した。	コロナ禍の状況下で三密の回避や感染予防は、非常に難しいが出来る限り努力を重ねている。面会方法の工夫やホーム通信の活用、理容師出張サービス、墓参り支援、年賀状の手伝い等、出来ることから進めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が良い関係で過ごせるように、時には職員が介入し、会話や同じ作業など一緒に行っていただけのようにし、より良い関係性を築けるように努めている。入居者がおやつなどを食べさせてくれたりもする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	死亡退去以外で途中でサービス中止された方はみえない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々に対話をし、その人を日々の生活で把握するように努めている。場合によっては、居室など周りの目を気にせず思いを話せる環境にも配慮している。	利用者との日々の何気ない会話や作業の中から、気づいた話題や趣味・趣向、行動特性等をこまめに記録している。そうした資料から関連した話題や特技、趣味などの気付きに努め、ホームでの生活の充実に役立てる努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の聞き取りでは、暮らしの情報を本人、家族へ聞き取りを行っている。サービス利用前からの馴染みの場所などを聞き取り、外出できるような機会を設けている。馴染みの店などにも一人で買い物へ行く方もみえる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中での様子を記録へ残し、職員全員で共有できるように努めている。その日その日にやれる事を行っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族からどのような生活をしていきたいかの情報収集を行い、ケアプランへ反映できるよう努めている。課題に対して、担当職員が主となりカンファレンスを行い、職員全員で統一したケアを行えるように努めている。	介護計画の定期的見直しは6ヶ月毎に行い、急激な状況変化には即時対応している。利用者毎に担当者を決めており、担当者、ユニット責任者、ケアマネジャー等で話し合い、利用者の状況及び家族の要望等を反映して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は、今年度から電子カルテ化した。書き方は以前同様統一した書き方を徹底し、情報が分かりやすいようにしている。食事量や排泄状況など個別での把握が必要な方のみ記載し、必要に応じてケアプランに追加変更するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の要望についてはその都度、一緒に考え可能な限り対応できるように配慮している。急な外出への対応や利用者の身の回りの必要品の買物やお墓参りの同行等柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所にお寺があり、お参り希望がある方に対しては、可能な限り出かけられるように努め、一人で好きな時に出かけられるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎朝全員バイタル測定を行い、記録へ残している。平常値ではない方に関しては、時間を空けて再度図るようにし、体調の変化を早期に発見できるようにしている。受診時にも主治医へ伝えられるように努めている。	協力医院は定期受診を行い、協力歯科医とは定期往診を行っている。入居前からのかかりつけ医を希望する利用者は希望に沿って家族と協力して対応している。ホームには看護師が2名おり、適切な医療支援が出来る体制整備を進めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホームとして看護師を採用しており、看護師が出勤日には様子を伝え、指示をもらっている。また、24時間オンコール体制を取っており、適切な指示が受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護サマリーを作成し、病院への情報提供を行っている。退院前には、院内で行われるカンファレンスに参加できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りまで行う方針であることは、ご家族やスタッフは理解している。看取りでは随時変化に対応できるようにし、今年度もホームで1名看取りを行った。また、看取り後振り返りを行い、今後の支援に活かせるようにしている。	入所時にターミナルケアについて説明し理解を得ているが、重度化した場合、改めて家族との話し合い、主治医の意見聴取等を進め、終末期の方針決定を行っている。終末期対応についての家族の協力、職員の研修、医療連携等についても、看取り実績があるが更に体制整備を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のや対応マニュアルは、状況に応じた連絡先の明記や、状態別の対応方法などイラスト入りの雑誌を活用しながらマニュアル化している。リビング・廊下・玄関外には見守りカメラを設置し、事故防止にも努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中、夜間の火災時における避難訓練を行っている。出火場所等も毎回変えることで、どんな状況でもより安全な避難経路を選択できるようにしている。地域での地震(津波)避難訓練は今年度も参加は見送った。	今年度もコロナ禍で地域の合同訓練は中止となったが、ホームでは火災、地震等の各種災害を時間帯や場所等、各ケースを想定し訓練、体制整備を進めている。災害備蓄も利用者分以外に近隣住民6名5日分も対応している。	地域の避難訓練は中止となったが、地域の協力は必要なので、地域との協力関係や連携をさらに深められるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	話の内容によっては、リビングなどの多人数が集まるのではなく、居室などで話すようにしている。指示的な声掛けになりやすい傾向がある。丁寧な言葉かけや、時には馴染みのある言葉を使っている。	利用者の権利の尊重と尊厳の維持を基本に、すべての介護が行われている。一人ひとりを大切に尊重して接し、相手に目線を合わせコミュニケーションを取るよう心がけている。特にトイレ誘導や浴室等では配慮ある対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者に選択肢のある声掛けをし、希望を聞くようにしているが、積極的に発言をされない方に対しては、本人に合わせた方法で希望を伺えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを優先し、個別での食事提供や入浴時間を変えるようにしているが、時間の都合で職員のペースで行ってしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	新型コロナウイルス感染の影響で理美容は地域の理美容院の利用を中止し、訪問理容を活用している。髭剃りは、仕上げを手伝わせていただいている。朝、寝ぐせのままにしないように整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日に食べたい物を聞き取り、希望に合わせた献立も反映できるように努めている。現在は買い物への同行は中止しているが、調理・配膳・片付けなど利用者と一緒にしている。	コロナ禍の感染予防のため買い物は一部制限されているが、毎食、職員と利用者が協力して、献立作成、配膳、後片付けという基本スタイルを維持し続けている。月一度の外出に変わり好きな弁当選びがあり喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日30品目を目標にし、バランスの良い食事を提供し、個々に合わせてサイズや内容を変更したり配慮している。食事量や水分量が少ない方に関しては、場合により、摂っていただけそうな補助食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は口腔ケアへの声掛けや介助を行い、入れ歯装着者には、夜間洗浄剤を使って清潔に保っていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々に合ったタイミングでの声掛け、トイレ案内を行っている。テープ式オムツの使用はない。自己排泄の失敗があった場合には速やかに着替えて頂いている。	ホームでは現在オムツを使用しないが、利用者が希望しないオムツの強制使用は虐待？、そんな意識で最低でも紙パンツとパットで自立支援にむけた支援を実施している。トイレ案内も、さりげない時間誘導や個別声がけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ヨーグルトや寒天ゼリー、牛乳等、腸内環境を整える飲食物の提供に心掛けている。必要な方は水分量をチェックし、十分な水分の摂取をして頂けるように努めている。主治医とも相談し、服薬での排泄コントロールもやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	全員に、毎日入浴への声掛けを行っている。基本夕方前後に入浴していただけるようにしている。午前中や夕食後などを希望される方に対しては、なるべく希望に添えるようにしている。	入浴が、毎日できる体制を整え、声がけを行い、積極的に入浴を進め、その実現に取り組んでいる。時間帯等も出来る限り希望に沿うように対応している。季節のゆず湯や菖蒲湯等も実施し、入浴剤も利用者の好みに合わせ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し、夜間しっかり睡眠がとれるよう、生活リズムを整えていけるよう、個々に合わせた休息の時間を確保している。居室内の温度管理をし、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方せんを個々ファイルにし、いつでも閲覧できるようにしている。受診時に、服薬の変更等があれば、記録へ留意点などを記載して様子を観察している。飲み忘れの無いようにチームで最善の方法を随時検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の好きなことや得意なことを把握し、家事など役割を持っている。季節に合った行事も企画している。時間やスタッフに余裕がある時には近所の散歩などにもでかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で日常的な外出はほとんど行っていない状況だが、毎日の日課で一人で散歩に出かけられている方は感染対策を行ったうえで継続して行けるようにしている。また、感染対策を行ったうえで屋外への季節の花を見に行くなどの外出は行っている	コロナ禍の影響を一番受けているのが外出支援であり、感染予防に留意し、三密の環境を避け、時間帯や人の集まらない場所へ出かけるように努力している。近隣の公園や寺院、また海岸線の散歩等を日光浴をしながら楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお金を預かり、個々で必要な物があれば、その中からご本人のお金だと説明し使用している。少量のお金であればご自分で管理されており、外出時に自由に使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個別で携帯を持たれている方へは、電話をかけた時に使い方の説明をしている。年賀状を送ったり、毎月お便りのやり取りを行っている。R3.1月からオンラインでの面会も整備した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関前の菜園には、野菜や季節の花を一緒に植えている。リビングには冷暖房、加湿・空気清浄機を設置し、過ごしやすい環境設備を整えている。廊下には、あえて職員が目が届きにくい空間を用意し、入居者同士が気軽に話ができるようにしている。	ホーム建設設計の段階から、木のぬくもりを大切に、プライバシーの尊重、快適な生活空間の維持等を考慮して建てられており、居心地の良い空間づくりが実現している。玄関や廊下には季節にあわせて写真など飾り工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下や玄関など目の届きにくい空間にベンチを用意しており、入居者同士が気軽に会話などができたり、一人で休める配慮をしている。入居者同士で居室を行き来したり、お茶を飲みながら過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人・家族の協力のもとエアコンとカーテン以外は全て持ち込んでいただき、食器なども馴染みのある物を持参していただいている。床で寝ていた方は畳を用意されたり、ベッドの方は使用していたベッドを持ってこられている。	自宅で使用していた、馴染みの品や家具・手回り品等の持ち込みがなされ、利用者ごとに、自分らしい居室空間が構成されている。畳を用意された方や、こたつを持ち込まれた方などその方にあった居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はお風呂場やトイレのドアの色を変えることによって、「トイレ」などの張り紙をせず施設感を出さないように配慮しながらも区別がつくようにしてある、またキッチンの高さも低くし利用者がキッチンに立って作業がしやすいようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392800070		
法人名	株式会社夢と希望の華		
事業所名	グループホームたなお 希望の華		
所在地	愛知県碧南市源氏町二丁目31番地1		
自己評価作成日	令和1年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=239](http://index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=239)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームたなおは、「高齢になっても、認知症状態になっても、夢と希望を持って人生の華を咲かせ続けられるように共に歩みます」の理念の基、認知症状態になっても可能な限り、今までの生活が継続できるように一人ひとりの状態に合わせた支援を行っています。日々の買い物や散歩など地域へ出かける機会を多く作る事で、地域住民との関わりを大切にすると共に、入居者自身も地域住民の一員として生活できるように支援しています。建物は木造で温かみのある、且つ入居者のプライバシーが確保できる空間を大切にしています。また、出来る限り施設間を抑え尊厳ある成人としての大人が暮らす「家」に配慮した環境を整えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニット会議では理念を唱和し確認・共有し、生活支援で職員それぞれが実践できるようにしています。コロナ感染対策に合わせて、ホーム周辺への散歩や屋外への外出は行ってきたが、買い物等室内への機会は行うことが難しい状況である		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事はほぼ中止となってしまった為、地域との交流は殆ど持ててはいない。毘沙門や地藏まつり等屋外で多人数が集まらない所への参加は行ってきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前は管理者が認知症介護指導者として研修講義をしたり、キャラバンメイトの活動として、地域の方に勉強会を開催していたが、コロナ感染対策で現在は可能な範囲で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の活動報告をし、普段の生活に関してはスライドショーの写真を見てもらいながら細かく伝えている。家族からの意見や要望も伺い、改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に参加していただき、事業所の運営について報告をしているが、参加者は少ない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関の施錠をせず、入居者が自由に出入されている。全職員が身体拘束についてのオンライン研修を視聴し、認識を高めています。十分な見守りが出来ない時や危険が伴う時は行動抑制してしまっている時もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員が虐待防止のオンライン研修を視聴し、学んでいる。言葉のヒヤリ等スタッフ間で気付きができるような取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度など利用している入居者はいません。必要であれば、社会福祉協議会の担当者に繋げられる体制はあります。今年度は外部研修への参加は出来なかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約者や重要事項説明書などに沿ってできるだけ分かりやすく説明し、その都度、入居者、ご家族に不明な点を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に家族の意見や要望を確認しています。また、意見などが有れば事業所内会議で話し合い、改善出来る様に努めています。また、日々入居者がいつでも気持ちや思いを話せるように声かけや傾聴をし、必要時にはケアプランへに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、ユニット会議、運営会議、委員会などで話し合いをしたり、日々の業務の中でカンファレンスをしたりして、意見や提案など意見交換をする機会を持つ様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	目標管理シートなどを活用し、職員が目標を持って取り組めるようにしています。シフトも融通が利く職場環境が整っています。時間外勤務などに柔軟に対応してその分の賃金など給与に反映されている。ノー残業デーを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	オンライン研修を中心とした研修に参加している。必要に応じてユニット内での研修や勉強会を設けています。人事考課制度を取り入れており、個別目標の設定や面談を行い、半期に一度の自己評価を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今季に関しては、外部との接触が殆ど無く、同業者との交流は設けてはいない。ただし、オンライン研修にてグループワーク等は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居後は本人の不安も大きいため、声かけや話を伺う機会を多くし、本人の要望に可能な限り寄り沿いながら、少しでも早く馴染める様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時、契約時、面会時など、家族とのコミュニケーションを大切にし、不安や要望を伝えやすい関係性作りに努めています。また、面会時にも要望をお聞きし、応えらえる様なケアをし、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「暮らしの情報シート」を確認し、入居者・家族と相談しながら、その都度、必要としている支援を検討しつつ、今後のケアに繋げるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事準備、掃除、洗濯等本人の出来る事には一緒に行い、入居者主体となれる様、共に歩みながら関係を築き、本人にも役割と生きがいを持って暮らせるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会の際、本人の普段の様子や気持ちを伝えるようにしたり、ホーム内に掲示されている写真を見てもらっている。家族の方に毎月「家族への手紙」や「ホーム通信」として報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染対策に合わせて面会規制を行いながら、交流を図って頂いています。お正月には年賀状を送ったり、馴染みの理容師さんの訪問も依頼している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	難聴や性格、認知症の状態に応じて、入居者同士の関係性を都度見極めながら、配席を考慮したり、コミュニケーションが取りやすいように配慮し、一人一人が孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今期在宅介護に復帰した方はみえないが、本人、家族に直接連絡することはないが、担当ケアマネさんに会った時に、在宅介護の様子を確認するように努めています。介護職員一人一人が経過をフォローする機会はないように感じる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中でどういったことを望んでいるか気持ちを把握できるように努めています。意向を確認することが難しい方もみえるが、日頃の会話でなるべく本人に選択して頂く機会を設けるように意識している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に「暮らしの情報シート」を家族に記入していただき、入居前の情報把握をしています。本人、家族との会話を通して暮らしの把握に努めています。自室にはベッドやタンス、テレビなど馴染みのある家具を使用される方も多くみえる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りなどでスタッフ間の情報共有を行い、本人の変化に気付き、現状を把握できるように努めています。ACPでは、家族の想いだけでなく、本人の気持ちも大切にしないといけない事をチームで経験し学んだ。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニット会議でモニタリングを行ったり、必要に応じてカンファレンス課題やケアのあり方などの意見交換をしたりして、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ホーム日誌や、個別記録に日中や夜間の様子、バイタルなど記録をすることで、体調の変化を職員間で情報共有し、その都度必要であれば、カンファレンスを行っている。また、看護師としての着目点もあるため、記録や申し送りで周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	欲しい物や、お参り、墓参り等、本人の希望を記録やスタッフ間で申し送りをし、すぐでなくとも可能なタイミングで対応できるようにしている。又、食べたい物等も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年度は極力交流を避けて活動してきたため、地域への出向いた交流はできず。訪問理容や訪問エステ、音楽会、日本舞踊、大道芸、動物介在等サービスの利用やボランティアの方々との交流をしてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力病院への定期受診を行い、本人、家族の希望に沿った治療方針になるように、主治医と相談しながら、適切に支援できるよう努めています。また、馴染みのある主治医がいる場合は、訪問診療や家族対応の受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護師が24時間医療相談を受け付けて下さっている。医療ケアに関しては看護師より指示を仰ぎ、現場職員が迷いなく対応できる体制をとっている。毎月看護会議も開催し、医療的ケアの意思統一も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供表を提供し、退院時にはMSWや病棟看護師さんと連携を取り、スムーズに退院調整ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、家族と話し合いを行い、主治医の意見も含め今後、どのようなことができ、どのようなことができないのかをしっかりと伝え、方針の決定ができるように努めています。終末期には、ここで良かったと思って頂ける様チーム一丸となってケアに当たっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルに沿って対応できる様にしている。より活用しやすい様に、振り返りを行い、改良を行っている。又、急変のリスクが高い場合には、随時対応手順を伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホーム内で避難訓練を年2、3回行っている。出火場所や時間帯など毎回変更をし、様々なケースでも対応できる様にしている。今年度は、地域での避難訓練は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩、目上の方であることは常に忘れず、言葉使いも、慣れ慣れし過ぎなくなお、堅苦しくなり過ぎないように配慮しています。羞恥心を伴う声掛けにも、十分に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	目線を合わせて会話をしたり、一人一人に応じた声の大きさやスピードで話しかけるなど、コミュニケーションを大切に、本人の希望を尊重できるように働きかけています。また、選択肢を提示することで、自己決定ができる機会を増やすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ある程度の生活リズムをキープしながら、個々のペースに合わせてられる様、臨機応変に可能な対応をしている。入浴時間、食事時間、起床時間も個別で可能な限り希望があれば合わせられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類選択する事も大切に、同じ服ばかり着ることがないように配慮したりしています。また、整髪や髭剃りなどの整容は鏡を見て、本人で出来る事は行って頂き、仕上げはお手伝いをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立は決まっておらず、その日に食べたい物などの希望に対応できます。調理、配膳、下膳などを一緒に行っています。入居者と職員で、食卓を囲み、いろいろな話をしています。月1度は必ず様々なお店のお弁当注文をし、普段の食事とは少し変化を持たせている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスに偏りが無い様に献立を考えたり、個々に合わせた食事形態への配慮をしています。定時提供と随時提供をし、必要に応じて摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っています。また、夕食後には義歯を預かり、翌朝まで義歯洗浄液に浸し、清潔を保持しています。本人の力に応じて、見守り、声かけ、介助を行い、口腔内に食物残渣がないか確認し、誤嚥性肺炎の予防も努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	テープ式オムツは使用せず、紙パンツとパットで自立に向けた支援を行っています。自己にてトイレへ行かない方へは、排泄状況の確認をし、トイレ案内をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期薬がある方以外はなるべく下剤には頼らず、乳製品や食物繊維の多い食品を使ったり、食材を細かく切ったり、乳酸飲料等の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	毎日、入浴への声掛けをし、毎日入浴ができる体制を整えている。一度断られても、声をかけるタイミングや本人の希望する時間帯への変更をし、臨機応変に対応できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ある程度の生活リズムを継続しつつ、休みたい方は自由に休息をとったり、空調等、室内環境に気を配りながら支援しています。また、居室掃除、布団干しやシーツ交換も行い、気持ちよく眠れる環境作りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人記録に薬の情報を入れ、常に確認できるようにしている。薬の変更時には記録や申し送り周知している。薬セット時には、チェック表を用いて内容物の確認やセットミスのない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	調理、洗い物、洗濯物、掃除等一緒に行い、入居者が関わっていける様に普段から意識している。できること、やってみたいこと、得意なことを聞きながら、喜びのある生活ができるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナ感染対策に基づいて、周辺への散歩やお墓参りなど、入居者が希望される場所に出かけ、必要であれば家族の協力のもと、出かけられるよう支援しています。季節を感じて頂ける様、屋外限定での外出支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお小遣いを預かり、入居者が希望する場合には一緒に買物に行き、欲しいものを購入していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者が希望された場合、家族の仕事など差し支えない時間帯に、電話で話をされている。また、年賀状を作成し、家族や友人との関係性も続けていける様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度や湿度の調整、空間除菌、掃除を行い、過ごしやすい空間を保つようにしています。また、リビングや廊下に、季節感を取り入れた飾り付けをしたり、入居者の写真や作品を掲示したりして、楽しめる様にもしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	あえて職員が目線が届かない場所を用意しているため、一人の時間や他者との交流が気兼ねなくできる様な環境を用意している。食事では配席は決めず、その日に過ごしたい場所で、過ごしたい方と、思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に、使い慣れた寝具や家具を持ってきていただくようにしています。生活していく中で体調や体力の変化も有る為、本人の状態に合った寝具や福祉用具を提案させて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には壁に手すりが備えられており、伝って歩けるようになっている。居室には表札を掛け、自分の部屋だと認識できるようにしています。事故ヒヤリ等発生時には状況に合わせて可能な環境整備や配慮をし、改善策を取り入れる様にしている。		